

番号	2	木起地蔵		
所在地	佐賀市高木瀬町大字長瀬2510 平尾天満宮			
災害別	文政11年(1828年)子年の大風(シーボルト台風) 暴風			
目的別	伝承	建立年	不明	
特記事項	(参考) 地蔵菩薩像 柳川市大和町			



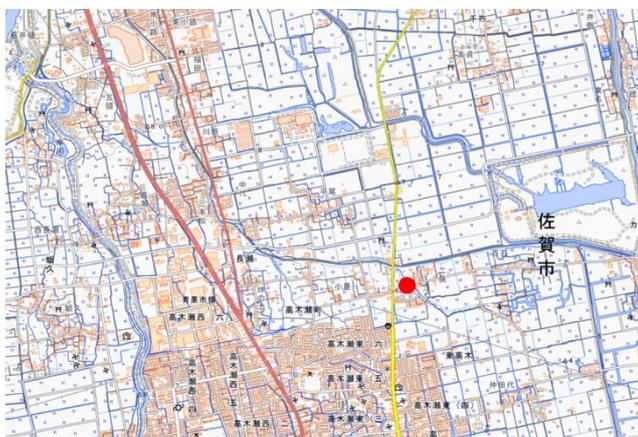
佐賀市高木瀬町長瀬の平尾天満宮境内にある「木起地蔵」。文政11年(旧暦)8月9～10日(1828年9月17～18日)の子年の大風、通称シーボルト台風の際の伝承がある。「佐賀県災異誌」(S39, 4, 30 佐賀県防災課発行)によれば、この台風で佐賀城下では八丁馬場の町屋がすべて将棋倒しになり、伊勢町は僅か3戸の立家があるのみで、比較的倒壊家が少ないのは白山町附近のみで、城壕の樹木は敷伏せられ二の丸の殿屋が露出したなど、その風力は猛烈であったという。また、高潮により佐賀平野の多くが浸水したといわれる。なお、この地蔵についての説明版などは設置されていない。

「木起地蔵 平尾地区河原の東の田の中に、国分寺総門の跡であると伝えられるところがある。昔この所に大きな樟の神木があった。文政11年(1828)8月の大風にこの樟が根元から倒れ、かたわらのお地蔵さんの堂宇に落ちかかろうとした。そこで庄屋蒲原中右エ門が村民と協議し、翌朝になってから大和町小川村の木こりに頼んで、この樟の木を伐採しようとした。その夜ふけ丑の刻になって、エイエイと騒がしい人の声がした。村人はこれを怪しんだが、翌朝になってみると樟の大木は元のように立ち直っていた。さて

は昨夜エイエイとかけ声をして樟の木を起こしたのはお地蔵さんであったろうということになって、それからはこのお地蔵さんを木越しの地蔵と呼ぶことになった。その時から参詣の老若男女が非常に多くなって時には代官所から参詣を差止めるようになった程であるという。又お詣りすればいぼがなおるということで一名いぼ地蔵さんとも呼ばれていた。この地蔵さんも今は平尾天満宮の境内に建てられた一宇の堂に安置されている。」

(出典：「高木瀬町史」 S51, 2, 11 高木瀬公民館発行 P307～308 より)

この台風による高潮で佐賀藩を始め沿岸各地で甚大な被害が発生したといわれるが、県内では高潮に関する遺構等は確認できなかった。なお、福岡県柳川市に台風による高潮被害等を伝える地蔵菩薩像が祀られているので参考までに掲載する。



国土地理院電子国土 Web

(参考) 地蔵菩薩像

福岡県柳川市大和町大字中島463



文政11年の子年の大風(通称シーボルト台風)を伝える大地蔵が、矢部川に近い柳川市大和町中島に立っている。

その説明板には、「大和町文化財 地蔵菩薩 指定 昭和五十三年十一月十四日 所在 大和町大字中島四六三

江戸時代の記録によりますと、文政十一年(※1829)八月九日の大風雨と高潮で、柳川領内の流失家屋2100戸、死者は200人余を数えたといわれています。柳川藩^{たちばなあきかた}主立花鑑賢は、八月十七日、福厳寺^{ふくごんじ}の僧に死者の供養を営ませ、翌十八日には、同寺で大施餓鬼^{おおせがま}を行っています。同年十一月、中島の庄屋荒牧氏は、民衆救護の悲願をかけて、大地蔵菩薩を建立しました。天草の石工が作った尊像を船に乗せて有明海を渡るとき、多くの船は、大風雨で難破しましたが、この船だけは無事に中島に着きました。

迎えの人々は、その不思議な靈験に驚き、合掌して感涙にむせんだと伝えられています。旧暦八月九日を「大地蔵さまの日」と定め、近在の人々が参詣します。近年は、中島の中町町内会の人々が例祭を行っています。大和町教育委員会」と記されている。

この台風は、記録に残るうえで史上最大の被害をもたらした台風といわれ、その高潮により、佐賀藩を中心に有明海、博多湾、周防灘で甚大な被害が発生した。



国土地理院電子国土 Web

※ 文政11年は1828年、説明版の誤りか？